田んぼわらしの ささやき
田んぼ10年だより

第７号　2016 11 月 12 日発

田んぼの生物多様性向上10年（略称：田んぼ10年）ニュースレター
発行：NPO法人ラムサール・ネットワーク日本（ラムネットJ）水田部会
所在地：〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F
TEL/FAX：03-3834-6566　電子メール：info@ramnet-j.org
ホームページ：http://www.ramnet-j.org

目 次

１．第４回生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA）2016 in 小山 報告 呉地正行 ..... 1・2
２．Series 活動紹介 房総野生生物研究所 手塚幸夫 ..... 2・3
３．水田部会からのお知らせ/これからの活動について・COP13 の協賛金のお願い 他 ..... 3・4

田んぼだより第７号は、栃木県小山市で８月 27・27・28 日に開催された第４回 ICEBA の報告を特集しています。ラムネットＪはこの ICEBA４に実行委員として初めから主体的にかかわり、大きな役割を果たしました。３日間にわたる充実した国際会議の様子の一部を、参加できなかった方々のために報告します。また、この会議の参加者一同による「小山宣言」を同封いたしますので、ご一読下さい。地域の活動紹介では、来年２月に地域集会の開催を予定しているいすみ市の房総野生生物研究所の活動をとりあげました。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

第４回生物の多様性を育む農業国際会議 ICEBA2016 報告　　水田部会長　呉地正行

2016 年８月 26-28 日に、栃木県小山市で第４回生物の多様性を育む農業国際会議が開催されました。今回は、日本各地から多数の方が参加し、国外からは韓国、ウガンダ、ブータン、フィリピン、インドからの参加もありました。約 500 席の主会場がほぼ埋まりました。また２日目の分科会には更に多くの人々が参加しました。

全体会合

●１日目：午前中に４つの基調講演があり、田んぼ 10 年プロジェクトについても、『「日本から世界へ」！～田んぼ 10 年プロジェクトがめざすもの』という演題で、呉地とウガンダ・水環境省のオコテルさんが講演しました。午後は、海外での事例（韓国、ブータン）、国内各分野での取り組み事例、そして地元行政（小山市と栃木県）の取り組み」が行われ、その後貿易自由化が進展する中で、生物の多様性を育む農業をどのように展開するのかといったテーマでパネルディスカッションが行われました。

エクスカーション　稲葉農園

●２日目：午前中にエクスカーションと日韓田んぼの生きもの調査交流会が行われました。午後からは６つの分科会が行われ、ラムサール・ネットワーク日本は、第３分科会「田んぼ 10 年プロジェクト」を開催しました。ICEBA2016 に向けてこれまで各地で行ってきたプレイベント（大分、滋賀、秋田での田んぼ 10 年プロジェクト地域交流会など）の報告に続き、国内（小山市、琵琶湖、佐渡）での取り組みと韓国での田んぼの生きもの調査報告、および、今後の国際的なネットワークづくりにための背景となる説明があり、それを受けて、「地域に根ざし、世界と結ぶ、田んぼ 10 年プロジェクト」というテーマでパネルディスカッションを行いました。日韓アフリカの関係者がパネラーとなり、ウガンダの JICA の２つのプロジェクト（国家湿地管理プロジェクトとウガンダ中東部での灌漑計画）に、水田決議の実践を盛り込む取り組みを行っている、長谷川さんにも参加していただきました。
長谷川さんからは自己紹介も兼ね、アジア生まれの水田決議を、アフリカのウガンダで湿地保全を実践する取り組みに組み込む取り組みについての話がありました。ウガンダは国土の１/10 が湿地で、その重要性が憲法にも歌われ、東アフリカのラムサール地域センターもあり、湿地に対しての国民の関心が高い国です。時間が限られていましたが、その中で田んぼ 10 年の取り組みをどのようにしたら世界に発信できるだろうかという視点から議論を行いました。

田んぼ 10 年分科会

ここで議論された内容は、最終日に出された、ICEBA2016「おやま宣言」の第 6 項にも盛り込まれています。宣言の全文は田んぼだよりに同封していますのでご一読ください。

●3 日目：6 つの分科会報告と、それを踏まえて今後の展開に向けたパネルディスカッションが行われ、生物多様性が今後の展開にとって不可欠は基盤となっていることを確認しました。その後総括が行われ、そのまとめが「おやま宣言」として石田実行委員長から読み上げられ、参加者の承認を得て採択されました。

分科会報告

●ブース展示

会場の外の通路はポスターブースとなっていて、ラムサール・ネットワーク日本は田んぼ 10 年プロジェクトのブース展示も行いました。この中には、田んぼ 10 年プロジェクトの概要と、最近各地で取り組まれるようになってきた「コナギ・プロジェクト」についての紹介も行いました。
なお ICEBA 期間中に、15 名の方が新たに田んぼ 10 年プロジェクトに参加され、田んぼの生物多様性向上を目指し一緒に活動する仲間がまた増え、大きな力を頂きました。

展示ブース

各地の活動紹介

登録会員の活動をご紹介します。

千葉県

谷津田を中心とした水辺がもたらす生物多様性　耕作放棄が進む現状と再生の試みについて

房総野生生物研究所　手塚幸夫（千葉県いすみ市）

私が住んでいる房総半島は平地が少なく、大部分が標高の低い（100～200m）山が連なる丘陵地になっています。この丘陵地の沿岸部や河川流域には侵食によりＶ字型に切れ込んだ谷が無数に形成され、谷津と呼ばれる地形が見られます。（谷津あるいは谷地という言葉は主に東日本で使われていて、西日本ではあまり馴染みがないようです。）谷津は、森と斜面草地と谷の 3 つの要素からできています。谷の部分は水が集ってきて湿地となるので、古くから谷津田（やつだ）と呼ばれる水田が作られていました。

谷津のミニ環境モザイク構造と両生類

図 1 は、この 10 年間、私が再生と維持管理に関わってきた小さな谷津の模式図です。広さは学校のグランド半分程度ですが、森、草地、畦、水路、田んぼ、水溜りなどなど、極めて多様な要素が見られます。谷津は、ミニ環境がモザイク状に組み合わされてできた里山ビオトープと呼べるような空間です。

図 1　谷津の全景（幅 20m・奥行 100mの小さな谷津）

図 2 は谷津田周辺の水辺の模式図です。谷津の主要な水辺は、「てび」という水路の部分、「みのて」という水量を調節する落とし口、「おっぽり（ふち）」という池のような溜まり、そして田んぼです。これらの水辺が多様な両生類の生息を保障します。実際、この小さな谷津で 9 種類の両生類が確認されています。千葉県に生息している両生類 14 種のうちの 2／3 が生息していたのです。

昆虫類を捕食し、爬虫類・鳥類・哺乳類に捕食される両生類、この分類群の多様性は、全体として生物多様性が豊かであることを示しています。

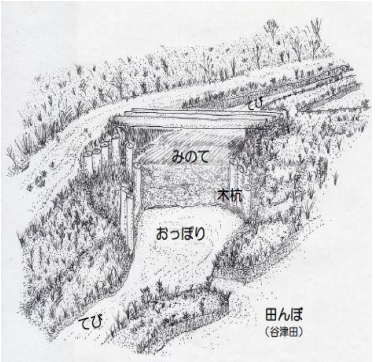

図 2　谷津田周辺の水辺
（てび・おっぽり・みのて は房総の方言）

生物多様性による防除

農薬を使わずに、害虫の数を低レベルで抑える生物多様性による防除が機能するためには、捕食者である両生類やクモ類、鳥類、肉食昆虫などの存在は不可欠です。中でも両生の類の役割は大きいと思われます。
両生・爬虫類の研究で知られた千石正一氏に興味深い報告があります。上陸後のアマガエルの子ガエルがその年に食べる昆虫は 7～8ｇという報告です。そこで、水田に子ガエルが 1000 匹いたとして計算すると、ショウジョウバエサイズの昆虫で約 75 万匹、小型カメムシサイズの昆虫で 7 万 5000 匹の昆虫が捕食・防除されることになります。子ガエルで計算してこの数です。生物多様性が豊な空間であれば、他にもクモ類、トカゲ類、トンボ・カマキリなどの肉食性昆虫、鳥類（とり）なども加わります。生物多様性による防除によって害虫の数を低いレベルでコントロールすることは可能と思われます。

ちなみに、この生物多様性による防除を手に入れるために特別な設計や工事は必要ありません。ほんの 50 年前まで維持管理されていた谷津田を中心とした水辺を復元すればいいのです。

伝統的な農地の姿と農的文化財

今、谷津田は次々と放棄されその姿を消しつつあります。そんな谷津田を有機水田や市民水田として復活させていこうと取り組み始めて 10 年近くが経過しました。

その谷津田の再生作業は、最初に水溜りと木杭（ぼっくい）の痕跡探しからスタートします。特に木杭は重要でてび（水路）、みのて（水の落とし口）、おっぽり（池状の溜まり）の位置と形状が見えてきます。

時には谷津の斜面を大きく掘って作られた穴堰（あなぜき）や、みのてやおっぽり を組み合わせた大きな構造に出会うことがあります〔写真〕。このような痕跡に出会うと、遺跡を発掘したような気分になり、数百年の時を重ねて得られた知識と技術の一端を垣間見たような心持ちになります。さらに、谷津田に限らず、かつて田んぼ周りには、土水路の他に、水門、溜まり、沼などのいろいろな水辺があり、その痕跡がわずかながらあちこちに残っています。

一方で、タイムリミットが迫ってきていると感じることもあります。農的な文化『財』が文化『遺産』になってしまう前に、コツコツとできることを重ねていきたいと思っています。

写真 “みのて”と“おっぽり”を組み合わせた水辺
（各段のおっぽりには１トン近くの水が溜まる）

水田部会からのお知らせ

国連生物多様性の 10 年日本委員会による認定連携事業第 9 弾で、田んぼ 10 年プロジェクトから新たに以下の２団体が認定されました。おめでとうございます。

- ✧ 秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科（秋田県）
- ✧ かわごえ里山イニシアチブ（埼玉県）

活動の内容は以下の URL で

・国連生物多様性の 10 年日本委員会 URL：
http://undb.jp/authorization/authorization_year/2016-10/

＊2016 年度に予定されている田んぼ 10 年の活動＊

1． CBD/COP13 12 月 4 日～ 於 メキシコ カンクン
・田んぼ 10 年プロジェクト公式サイドイベント 12 月 9 日（予定）・ブース展示
・UNDB-DAY（12 月 5 日）で 田んぼ 10 年プロジェクト発表と⌂の提供（予定）
＊ブースでの展示を希望する団体は 11 月 20 日までに事務局までご連絡ください。

2． 田んぼ１０年全国集会 in 川越 2017 年 2 月 18 日（土）13:00～
於ウェスタ川越（川越駅より徒歩 5 分）同時開催：展示と試食 詳細未定

3． 田んぼ 10 年地域集会 in いすみ 2017 年 2 月 25･26 日 （土･日） 詳細未定

■田んぼ 10 年プロジェクト 新規参加者のご紹介 （2016 年 8 月～10 月）

No.	都道府県		参加者名
103	大分県	個	嶺 泰宏
104	大分県	個	原 研二
105	大分県	個	赤嶺 謙二
106	大分県	個	工藤 走
107	大分県	個	杉浦 和久
108	大分県	個	髙木 廣記
109	大分県	個	渡辺 きみる
110	大分県	個	山本 貴二
111	大分県	個	小山 正記
112	大分県	個	伊藤 絵里子
113	大分県	個	戸次 秀司
114	大分県	個	児玉 脩
115	大分県	個	緒方 雅恵
116	大分県	個	川野 智美
117	大分県	個	堀 浩平
118	大分県	個	渡辺 雪法
119	大分県	個	堀 笙子
120	大分県	個	西 文正
121	大分県	個	大野 真寛
122	大分県	個	幸 徳行
123	大分県	個	指原 正道
124	大分県	個	森 誠一
125	大分県	個	下村 真一郎

126	大分県	個	森岡　雄平
127	大分県	個	穴見　純一
128	大分県	個	原尻　薫
129	大分県	個	田尻　和實
130	大分県	個	横山　民幸
131	大分県	個	阿部　秀幸
132	大分県	個	安井　玉樹
133	大分県	個	佐藤　文人
134	大分県	個	麻生　清尭
135	大分県	個	久保田　正治
136	大分県	個	安部　正吾
137	長崎県	個	矢野　博巳
138	熊本県	個	宮﨑　高虎
139	福岡県	個	小野　仁
140	広島県	個	延安　勇
141	福岡県	個	加悦　典子
142	熊本県	団	九州環境パートナーシップオフィス
143	千葉県	団	市原米沢の森を考える会
144	栃木県	個	冨居　登美子
145	東京都	個	Evonne　Yiu
146	栃木県	個	松本　治
147	東京都	個	柏木　実

148	東京都	個	坂田　昌子
149	栃木県	個	亀岡　康一
150	茨城県	個	大畑　孝二
151	東京都	個	中村　俊彦
152	京都府	団	生活協同組合コープ自然派京都
153	東京都	個	片山博文
154	千葉県	個	手塚　幸夫
155	栃木県	個	大木　敏子
156	栃木県	個	工藤　東二
157	福島県	個	渡部　よしの
158	埼玉県	個	松本　斉
159	栃木県	個	佐藤　春菜
160	茨城県	個	小栗　幸雄
161	栃木県	個	上原　克巳
162	栃木県	個	大塚　英子
163	北海道	個	石井　弘之
164	千葉県	個	山下　友実
165	栃木県	個	亀岡　康一
166	東京都	個	古沢　広祐
167	茨城県	個	鈴木　文代
168	茨城県	個	山崎　鈴子

★現在準備中の HP では参加されている皆様の活動の内容も含めて掲載いたします。少々お待ちください。

CBD/COP13 のための特別協賛金を募集します、ご協力をお願いします！

生物多様性条約第 13 回締約国会議が、2016 年 12 月 4 日からメキシコのカンクンで開催されます。農業の生物多様性の主流化に焦点が当てられているこの COP13 で、ラムネット J 水田部会は、以下を実施します。

●田んぼ 10 年プロジェクトに関するサイドイベントを 12 月 9 日の夕方、JICA との共催で開催します。

●12 月 5 日の UNDB-DAY（環境省・CBD 事務局などが主催）の中で🍺、お酒、お茶などを提供し、食べ物を通じて農業の生物多様性の主流化を推進します。

●展示ブースでの展示活動

田んぼ 10 年プロジェクトは皆さんの活動で成り立っています。スタッフの派遣、展示物の作成などにかかる費用の一部を、田んぼ 10 年に参加する皆様にも協賛してくださるようお願いいたします。

同封している振込用紙をご利用ください。

COP13 のブースでのポスター等の資料展示を希望する団体は、至急事務局（03-3834-6566）までご連絡ください。

●募集期間：　2016 年 12 月 31 日まで　　●金額：一口 2,000 円（複数口歓迎します）

●振込先：ゆうちょ銀行振替口座　00140-0-765702　　ラムサール・ネットワーク日本

田んぼ 10 年プロジェクトは、企業からの支援をいただいています。

全農　MS&AD　MS&ADインシュアランス グループ　co-op コープネット　コープネット事業連合　食卓を笑顔に、地域を豊かに。

連絡先/事務局
ラムサール・ネットワーク日本
Ramsar Network Japan
info@ramnet-j.org
FAX:03-3834-6566

にじゅうまるプロジェクト

田んぼ 10 年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加し、国連生物多様性の 10 年日本委員会の連携推進事業に認定されています。

このニュースレターは、平成 28 年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。